

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475300693	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	工藤建設株式会社		
事業所名	グループホームフローレンスケア たかつ		
所在地	(〒213-0026) 神奈川県川崎市高津区久末1744-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		エント数	2エント
自己評価作成日	平成26年10月18日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭の延長の様な温かな雰囲気作りとコンセプトである『心地よさ』追求すべく努力をしている。その為にもその人（入居者）を知る事の大切さを意識し毎日が新しい発見の時でありアセスメントであると意識している。入居者の出来ない事に目を向けるのではなく、何が出来るのかの視点で考え手助けしながら自立した張りのある生活につなげていきたい。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月5日	評価機関 評価決定日	平成27年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR南部線溝の口駅・武蔵新城駅、東急田園都市線溝の口駅、東急東横線綱島駅、横浜市営地下鉄グリーンライン高田駅からバス便がある。周辺は自然環境に恵まれた住宅地で、建物は法人の設計施工による、ゆったりとした鉄骨造り2階建てのグループホームである。居間・食堂とキッチンがフロアの中央にあり、職員が見守りやすいように配置され、陽当たりが良く清潔である。壁面には利用者が作った刺し子や習字などが飾られている。同一法人のデイサービスを併設している。</p> <p>【利用者本位の介護サービス】 法人の理念「思いやりの心と確かな介護技術で高齢者の明るい未来を」を実践するため、職員は給食や行事レクリエーション委員会を自主的に運営し、利用者に寄り添い、チームワークよくサービスの質向上に努めている。利用者は家事などの役割をもち「自分らしく」日常生活を送れるように自立支援が行われている。法人の作業療法士が体操の訓練をしている。利用者の平均年齢は90歳だが、要介護度（平均値2.2）を維持している。</p> <p>【医療機関との連携と災害対策】 協力病院との24時間オンコール体制があり、定期的に訪問診療を受けている。家族と医師で話し合う機会（ムント・セラピー）を設けている。防災訓練を年に2回実施し、非常食・飲料水などを3日分備蓄している。</p> <p>【地域交流と利用者の暮らしづくり】 町内会の夏祭りや敬老会にも参加している。事業所のたかつ祭り、敬老の日、クリスマス会には、家族と地域住民を招いている。多様なボランティア（音楽療法、紙芝居、塗り絵や粘土、手品、オカリナなど）の来訪がある。イベントとしては、初詣や季節ごとの花見、家族が参加する年1回のバス旅行がある。毎日の散歩や家事、買い物など、出来ることを日課としている。行事食や外食も充実している。利用者は居間で合唱し、レクリエーションを楽しみくつろいでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	1Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。	法人の理念と事業方針を、朝の申し送り時に唱和し、意識付けしている。また、事業所の運営方針と施策を年度ごとに作成し、会議室・事務室に掲示し、日々の介護に反映させている。法人の理念「思いやりの心と確かな介護技術で高齢者の明るい未来を__」が職員に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。今は花壇や畑の手入れを地域住民の方と一緒にすすめている。	久末町内会に加入し、夏祭りや地域清掃、防災訓練、敬老会にも参加している。事業所のたかつ祭り、敬老の日、クリスマス会には、家族と地域住民を招いている。小学6年生の体験学習を受け入れている。多種のボランティア（音楽療法、紙芝居、塗り絵や粘土、手品、オカリナなど）の来訪がある。地域住民の介護相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。	2ヶ月に1回開催している。出席者は利用者・家族、町内会副会長、地域包括支援センター職員、事業所職員である。会議では利用者や職員の状況、行事や事故などの報告を行い、助言をもらっている。外部評価結果も報告している。薬を使わない排便コントロールとして、米飯に寒天を混ぜる効果を説明したところ、地域包括支援センターから、地域に紹介したいと関心を持たれた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。	川崎市とは制度、届出などの相談を行い、年2回の集団指導等で連携を深めている。市、区の管理者研修、感染症研修などに参加している。地域包括支援センターには、困難事例などの相談で連携することが多い。事業者連絡会はないが、地域の同業者とは交換研修の働きかけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関20:30～6:30迄は防犯の為施錠しているが各フロアの出入口に関しては開放している。	身体拘束を行わないことを契約書に明記している。法人が入職時研修、現任研修を実施している。身体拘束廃止マニュアルで理解を深めている。日中は主玄関、ユニット玄関ともに施錠していない。ユニット玄関にセンサーを設置し、職員の見守りで安全を確保している。帰宅を希望する人には、職員が外出に付き添い、気分転換を図っている。不意の外出には、建物オーナーや町内会副会長などに協力を依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できる様にしている。又外部研修においての資料をもとに、全体会議等を通してフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。	運営懇談会を年2回開催し、利用者・家族の意見要望を聞いている。家族の来訪時にも聞いている。便り「ほほえみ」を月1回発行し、居室担当職員の「一言欄」を設け、個別の暮らしぶりを家族に伝えている。家族との連絡ルートをホーム長に一本化している。主要行事には家族の参加がある。	今回の外部評価で行われた「利用者家族等のアンケート」結果などから明らかになった意見・要望などを運営に反映することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議とユニット会議を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。	月1回のユニット会議や全体会議で職員の意見交換が行われている。レクリエーション委員会、給食委員会を設け、職員が意見を出し合い、自主的に運営している。ホーム長が人事考課に基づく個別面談を毎年行い、職員のモチベーションアップと定着を図っている。法人の資格取得支援制度があり、各種の資格取得の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の訪問見学は随時行ない情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状のご様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。	友人の来訪には、お茶を出し歓迎している。昔の職場の部下が訪れ、一緒に外出する方もいる。馴染みの図書館に行く利用者もいる。家族と一緒に墓参りしたり、毎月帰宅する利用者もいる。年賀状の宛名書き、投函、電話の取次ぎを職員が支援している。平均年齢の上昇等から友人が訪ねて来る機会が減少しているため、少人数グループでの外食や買い物等、入居者同士の交流機会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。男性が1人の為1人になる事が多いがスタッフの関わりを多くし対応している。女性入居者はレクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族なども、不定期ですが連絡や年賀状の送付を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ユニット会議やケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。	利用開始時にアセスメントを実施し、思いや意向を把握している。入居後も6ヵ月ごとにアセスメントを実施し、介護計画に反映させている。日常的には日々の生活や会話の中で、利用者の意向の把握に努めている。把握が困難な人については、表情から読みとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。	本人・家族の意向を聞いて介護計画を作成している。3ヵ月ごとのモニタリングと6ヵ月ごとの介護計画の見直しには、ケアチェック表（経過記録）を時系列的に確認する介護ソフトを導入している。サービス担当者会議には、本人・家族が出席し、職員と話し合い医師の意見を取り入れて介護計画を見直している。心身の状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面や金銭面等の相談がありここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習や地域ケアプラザの図書館を利用し、地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。	利用者全員が月に1回、協力病院の訪問診療を受けている。このほか個別診療が月に1回ある。協力病院とは24時間オンコール体制があり、家族と医師で話し合う機会（ムント・セラピー）を設けている。訪問歯科は月に1回、訪問皮膚科は2カ月に1回ある。日中は併設デイサービスの看護師の支援がある。認知症の対応については、協力医から専門医を紹介してもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいないので何かあれば協力医療機関の往診医へ相談している。又併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。	「重度化した場合の対応に係る指針」があり、契約時に説明している。終末期を迎えた場合は、その都度対応について協議し「同意書」を取り交わし、看取りまたは入院支援が行われている。これまでのターミナルケアは3件、入院支援は1件である。「ターミナルケアマニュアル」がある。法人の看護師がターミナルケア研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様にしている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。	防災訓練は年2回行っており、内1回は消防署の立会いがある。夜間想定訓練も行っている。地域住民の協力がある。地域の防災訓練には職員が参加している。災害備蓄（非常用飲料水、食料など）は、3日分保有している。また、カセットコンロや燃料の備えも確認した。主玄関内の自販機は容量が大型で、災害時には備蓄としての役割もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。	人格の尊重とプライバシーポリシーは、法人の入職時研修と現任研修で徹底している。「個人情報保護方針」が玄関に掲示されている。法人の事業方針「私達は介護高齢者の尊厳を守り、自由を尊重します」と「禁句10カ条」が会議室に掲示されている。個人情報に係る重要書類は、事務室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。	給食委員会で嗜好を把握し献立を作っている。配食業者から食材を購入し、職員が利用者個々の嗜好・食事形態に合わせ調理している。バーベキュー、さんま焼き大会、流しソーメンなどの行事食がある。月1回「刺身の日」があり、週1回、希望者を募って外食に出かけている。外出行事のときは仕出し弁当を持参することもある。利用者は下ごしらえ下膳・配膳、食器洗いなど出来ることを手伝っていた。包丁を使う利用者もいる。職員は介助しながら利用者と同じ物を食べていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量に少ない方には嗜好品をこまめに提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあった口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。拒否の方への対応は検討中。	排泄は自立の人が1名で、他の人はリハビリパンツなどを使用している。個々の排泄パターンを把握しトイレに誘導し、自立して排泄できるように支援している。自立支援の効果で、多くの方が、おむつからリハビリパンツなどに改善した。トイレはユニットごとに3ヵ所ある。手すり、肘掛、手洗いが設置され、内2ヵ所は車いす介助ができる広さがある。「米飯に粉寒天を混ぜる排便コントロール」を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1200CC以上摂れる様こまめに提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴を行い石鹸やシャンプーも好みの物を使用し入浴時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日は毎日提供しているが、時間は13:30～16:00と限られている。	入浴は週2回を原則としているが、希望により回数を増やしている。夏季は散歩帰りにシャワーを利用している。入浴したがない場合は、無理強いでせず辛抱強く促している。足浴なども実施している。菖蒲湯、柚子湯で楽しんでもらっている。脱衣場のエアコンでヒートショック対策を行っている。同性介助の要請があれば対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示し、夜勤者が翌日1日分の配薬をセットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子のお話を近隣の方ともしている。季節に応じて花見やご家族と一緒にバス旅行等も企画している。	天気の良い日には、車椅子を利用している人と一緒に散歩や買い物に出かけている。自立に近い人は裏山のハイキングに出かけている。事業所の周りで日光浴をするなど、外気に触れる機会を作っている。時には外食にも出かける。初詣や季節ごとの花見に出かけ、地域の夏祭りに参加している。家族が参加する年1回のバス旅行がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト迄投函しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。	居間・食堂とキッチンが建物の中央にあり、職員が見守りやすいように配置され、陽当たりが良く清潔である。共有スペースは全般的に広く、台所には広いL字カウンターがあり、複数の利用者が一度に調理の手伝い出来る。談話室に大きめのソファとテレビを配している。壁面には利用者が作った刺し子や習字などが飾られている。敷地は広く、家庭菜園の収穫物は、芋煮会など食卓を賑わしている。利用者は居間で合唱し、レクリエーションを楽しみくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。	居室にはエアコン、換気扇、ワイヤレスナースコール、クローゼット、TV端子が備え付けられている。室内は整理整頓され清潔である。利用者は照明器具、防炎カーテン、ベッド、整理たんす、テレビ、人形、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせる部屋作りをしている。床に布団を敷いて寝ている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	2Fユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。今は花壇や畑の手入れをご近所の方と一緒にすすめている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フローに「身体拘束の手引き」を配置しいつでも見られる状況にしている。入居者が少しでも苦痛の感じる事の無い様日々努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で虐待について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識つけている。又、入居者への心の訴えを見逃さない様注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、全体会議等を通してフィードバックしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議とユニット会議を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の訪問見学は随時行ない情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人の意向をゆっくり静かに傾聴し無理なく行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は生活が見えない分不安や心配が多いと思うが、面会時等はいつもの様子をお伝えし要望を伺いながら安心して頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見つけ、見守りながら皆で一緒に楽しみながら行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族双方の思いに耳を傾け、ご本人の一番良い生活になればと思う。一緒に参加出来る行事等企画し、楽しいひと時を過ごせる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛けられる様スタッフも協力している。ご本人が大切にしている人や思っている人の話をしたり安心して頂ける様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、合わない方がいる中でスタッフが関わっていく中で温和を保てるように工夫している。レクリエーションや家事等を通じてより良い関係作りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですが連絡や年賀状の送付を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から皆様色々な思いで暮らされている事を察する。ユニット会議やケアカンファレンスにおいてその思いを共有しその方に応じた接し方を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票をもとに日々の暮らしの中でご本人との会話やご家族面会時にお聞きし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の充実を図り各自閲覧しチェック表、申し送りノート等を共有し総合的な現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者や居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のやりたい事出来る事を見つけて、一緒に楽しみながら生活するのが基本であるが、状況によってはご本人・ご家族が安心出来る様な支援が必要であれば柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、自治会行事への参加、小学生との交流、運営推進会議等では地域住民の方や地域包括のケアマネジャーより情報交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施、ご本人ご家族と往診医の関係をスタッフが取り持ち共有している。ご家族が往診医と話しが出来る様にムンテラを随時設定している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事があれば随時協力医療機関へ連絡をして指示を仰いでいる。又併設の事業所であるデイサービスの看護師にも相談や様子確認を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会ではいつも議題にのせ終末期のあり方を話し合っている。往診医とご本人・ご家族と面談の機会を随時設け、希望要望を伺いスムーズな連携が図れるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。グループホームにおける防火体制の研修等にも参加し、対応を皆で検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生き方、職業、生活等を念頭に置き、それぞれの入居者様を尊重して接している。接遇の研修や職員会議等で度々言葉遣いや態度について話し合いの場を持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を最優先し、家事や散歩等一緒に相談しながら行なっている。なるべく自己決定しやすい様な声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	何事も入居者と相談しながら行い、ゆったり穏やかな一日が過ごせる様配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容の散髪やけ染めを行なっている。ご本人の意見を尊重しながら清潔感のある服装・身だしなみがしやすい様にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付け迄一緒に会話を交え協力して行い、楽しみになる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べやすい食事形態にしたり、途中から介助しながらなるべくご自身で召し上がれる様にしている。食事は記録に残しスタッフ全員で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後無理の無い声掛けにて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け排泄パターンを把握しトイレ誘導している。なるべくパットやオムツに頼らずご本人の意向に合わせた介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分補給はこまめに提供している。運動も大事にて毎日の散歩や体操も日課に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴を行っている。但し、曜日は毎日提供しているが、時間は13:30～16:00と限られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には馴染みの家具を置いたり、ご本人の生活スタイルに合わせて安心して休息出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローアに置き開示し、夜勤者が翌日1日分の配薬をセットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。症状に合わせて往診医と相談出来る環境がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方には料理を、洋裁が得意であった方には縫い物を手伝って頂いたり、レクリエーションや外出等気分転換を図って頂ける様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。季節に応じて花見やご家族と一緒にバス旅行等も企画している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物に付き添い好きな物を購入出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力も得て、本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった塗り絵や書道、飾り付をし、心地よく過ごせるように工夫している。毎朝全員で居室や共用部分の清掃をし、清潔に生活出来る様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や食堂等で気の合った仲間と過ごせる空間がある。回廊には作品や写真などを掲示し会話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前から使用していた食器や家具等、馴染みのある物の中で生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHフローレンスケアたかつ

作成日 平成27年1月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	サービスの質の維持・向上の為にも、意見の言える職場を目標にする。	働きやすい環境作りと、個々の職員が考え意見が届くような環境づくりと会議の場を設け、やる気とモチベーションを上げる。	個々の職員が業務において困っている事や新たな企画などについて話し合う機会を設ける。	1年間
2	2	地域とのコミュニケーション及び近隣にある他の地域密着型サービスとも連携を図る。	ご入居者及び職員が町内会や民生委員等幅広い交流や各種イベントの参加や声掛けを行い意見徴収をしていく。 また、近隣に所在する地域密着型の介護サービス業者（施設等）とも連携を図り話し合いや相談できるようになる。	地域交流の場に参加や当ホーム主催のイベントに地域の方へ声掛けし参加いただき信頼関係を築いていく。 近隣の地域密着型サービスと交流できるよう、地域包括センターなど活用し紹介して頂く。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。